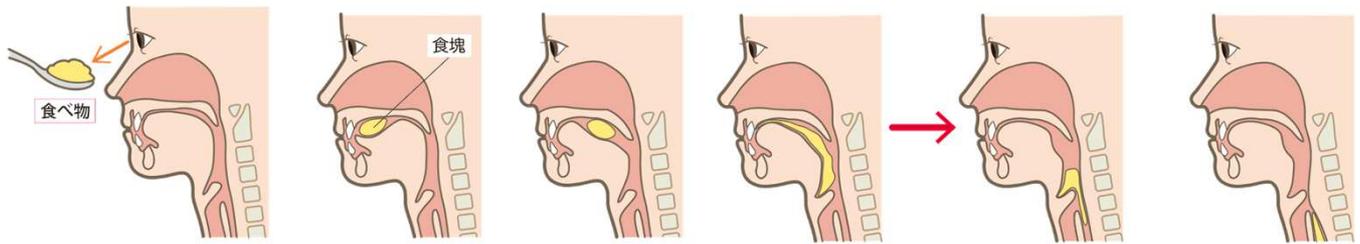


摂食嚥下のプロセスについて (第2回)

A3病棟看護師 吉田美沙子

今回は前号の摂食嚥下の5期モデルをもとに摂食嚥下障害がおきてしまったらどうなるのかご紹介したいと思います。摂食嚥下障害には、食物の認知から胃に入るまでに特徴的な症状があります。

摂食嚥下の5期モデル



1. 先行期 (認知期)

2. 準備期 (咀嚼期)

3. 口腔期

4. 咽頭期

5. 食道期

①先行期先行期 (認知期)

食べ物の形、硬さ、温度などを判断する



- ・食事に興味を示さない
- ・食べ方が分からない
- ・絶え間なく食べ続ける
- ・口を十分に開けられない
- ・食べ物と認識しない

そういえば
 食べるときに
 こういふことが
 多いような気がする

②準備期 (咀嚼期)

食べ物と唾液を混ぜて、飲み込みやすくまとめる

③口腔期

舌の運動で食べ物ののどの奥へ移動させる

- ・食物が口からこぼれる
- ・いつまでも口を動かしている
- ・飲みこまないで口にため込む



④口頭期

食べ物をごっくんと飲み込み食道に送る



- ・口を動かしている途中でむせる
- ・飲み込むと同時にむせる
- ・飲み込んだ後むせる

⑤食道期

食道の動きで食べ物を胃に送る

- ・飲み込んだものが逆流し、嘔吐や胸がつかえる
- ・食後、夜間などにむせたり、咳が出る



このような症状が続く場合は、お気軽に摂食嚥下外来にご相談ください。

